

## お知らせ

### 計算科学技術部の研究成果プレス発表について

本誌、「アクア・イノベーション拠点 (COI) - 信州大学における、大規模シミュレーションを用いた革新的ロバスト炭素膜による水処理機構に関する研究の紹介」の内容は、計算科学技術部の荒木拓海氏が自らのシミュレーションによる研究内容について説明しているが、この研究に関して、荒木氏が第一著者とし書き上げた論文が米国雑誌 (ACS Appl. Mater. Interfaces, 2015, 7 (44), pp 24566- 24575. Impact Factor 6.723) に掲載され、それを受けて平成27年11月17日、信州大学工学部でプレス発表が行われたのでここでその様子を紹介する。

会見はCOIプロジェクトで購入し今回の研究に使われたスパコンの前で行われ、長野朝日放送、信越放送、長野放送、信濃毎日新聞、中日新聞、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞などの報道関係者が取材に集まった。特設されたスクリーンを使って、研究プロジェクトリーダーの遠藤守信特別特任教授がプロジェクト全体の説明と信州大学で作成された水処理膜の実験合成の説明、荒木氏が水処理膜の脱塩、透水性のメカニズムを分子動力学シミュレーションの計算結果に基づき、動画を交えながら説明した。取材は2時間近くに及んだ。翌日の信濃毎日新聞では、遠藤教授の言葉として「(研究チーム内で) スパコンを運用する計算の専門家と、われわれ材料開発のチームの連携で成果が出た」、「スパコンは社会への貢献を常に問われており、私たちは一つの成果に結びつけることができた」が記事に取り上げられた。



写真 プレス発表の様子。右から順に手島氏、荒木氏 (RIST)、遠藤教授、ルドルフォ教授 (信大)

また、荒木氏は他にも信州大学の実験グループにシミュレーション結果を提供し、2本の論文（「膨張黒煙による随伴水一次処理法の開発」、「カーボンナノチューブ・ポリアミドのナノ複合膜による高性能、多機能性逆浸透膜の開発に成功」）で共著者となっており、これらの成果もプレス発表済である (<http://www.shinshu-u.ac.jp/coi/news/>)。